

カナダ・ランガラカレッジ Choji Hayashi 客員教授(GC 学部)

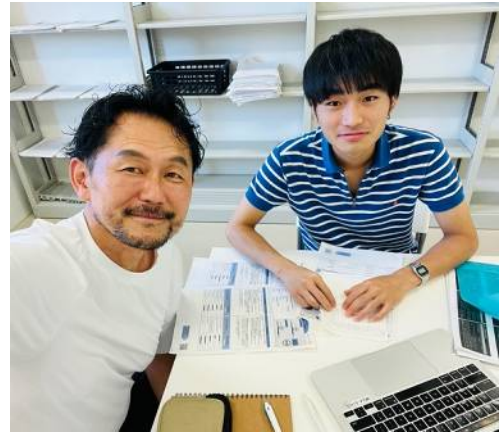
前期授業報告

本年度 4 月 1 日より本学 GC 学部に客員教授としてカナダ・バンクーバーのランガラカレッジより赴任されている林長司先生が前期の授業を全て終了されました。来日以来の先生の神戸学院大学での毎日を振り返ってみました。



林先生が担当された講座は英語表現 III と異文化コミュニケーション論（前期後半部）。英語表現 III は英語を用いて 3 つのプロジェクトを完成する 29 名の学生から成るクラス。異文化コミュニケーションは受講生 155 名が出席する大教室で行われる講義中心のクラスでした。

英語表現 III のクラスでは 9 グループに分かれた学生達が英語のテレビドラマをもとにしてスキットを制作し劇仕立てにしてクラスで発表したり、日本語を母国語としない外国人の方々に自分たちでコンタクトを取りインタビューを行い、学期末にはそのインタビューをもとに新しく学んだ外国の文化についてグループごとに発表したりしました。毎回の授業で学生が提出するジャーナル（英語による短いエッセー文）に林先生は一人一人内容についてのフィードバックをメッセージとして送られ、学生達の考えている事、学生から先生への質問や意見を取り入れた指導をされました。林先生によると学生達の成長ぶりには目を見張るものがあり、7 月下旬に行われた最終プロジェクトの完成度の高さに学生達の大学でのポテンシャルを強く感じられたそうです。また、TOEIC 受験予定の学生達のための個人指導も希望する学生のために研究室で定期的に行われました。



TOEIC 指導を行う林先生（左）



英語表現 III クラスにて

異文化コミュニケーション論のクラスでは異文化コミュニケーションとは何かを人類の歴史や社会を振り返り、マクロレベルとミクロレベルで解説されました。林先生の学術活動の本拠地であるカナダやアメリカ合衆国、そしてラテンアメリカでの経験を生かした国同士の文

化比較に始まり、言語が人間社会に及ぼす影響を有史以前から現代に至るまでの人や文化の流れがどのように人間社会を形作ってきたかを解説し、最終的にはジェンダー間や世代間そしてソーシャルグループ間に存在する文化の違いを理解することの大切さを学生達と一緒に考えられました。大教室での講義であるにもかかわらず、学生達は果敢に質問をしたり意見を言ったりと活発に林先生の講義に積極的に参加していました。林先生の授業形態は英語と日本語のバイリンガル講義でしたが、林先生の第3言語であるスペイン語も活用され、スペイン語のミニレッスンなども講義の間に行われました。学生達は新しい言語にも触れ講義中に行われる様々なアクティビティに果敢にチャレンジしていました。



異文化コミュニケーション論での授業風景

他にも G C 学部の英語専攻演習やゼミなどでもゲストスピーカーとして文化論や社会論また日本人移民の歴史や海外での活動などについてお話をされ、学生達は興味津々に話に耳を傾けていました。また、林先生は学外の様々な分野より招かれた客員教授の方々の講義にも足を運ばれ教授の方々と交流を深められました。

林先生はカナダでは応用言語学及び歴史言語学の知識を取り入れた日本語教育に取り組んでおられ、今回の神戸学院大学での滞在では C G 学部の仁科先生のご指導のもと色彩心理学についての情報を集められ、色彩と日本語の助詞の発音との関わりについて調査されました。

また、古代日本語の特徴を残す琉球語の研究、そして縄文文化との関わりのあるアイヌ文化の中に残されるアイヌ語と日本語との関係を示す資料を探しに沖縄そして北海道へとフィールドスタディーの旅にも出かけられました。



沖縄でのフィールドスタディー



北海道でのフィールドスタディー



5 か月に渡る神戸学院大学での毎日は大変充実したものとなり、多くの先生方に支えられた事、学生達と大変有意義な交流ができた事、そしてスタッフの方々に教務や日本での生活一般のサポートを隅々までしていただいた事、そして、風光明媚な神戸という町にある研究・教育意欲を高揚させる美しいキャンパスで業務に関われた事は大変素晴らしい経験になったと言われていました。これからもカナダと日本の学術交流のために神戸学院大学での経験を生かし、国境なき教育者として尽力されたいとの事でした。

